

Newsletter

Vol. 10

2026年10月



福島県の現状と医療(1年生共通科目)におけるフィールドワーク

保健科学部は6年目を迎えました

保健科学部長 五百川 和明



日頃より、保健科学部の教育・研究活動にご支援いただいている保護者の皆様、臨床実習等で学生の学びを支えてくださる病院・施設の皆様、そして地域・市民の皆様に、心より感謝申し上げます。

近年、少子高齢化の進展や医療技術の高度化、地域包括ケアシステムの推進、さらにはAIやデジタル技術の発展など、保健・医療等を取り巻く環境は大きく変化しています。このような時代において、確かな専門知識と技術に加え、変化に柔軟に対応し、多職種と連携しながら、地域の人々の健康と暮らしを支えることのできる人材の育成が求められています。

開設6年目を迎えた本年度は、これまで築いてきた教育・研究の基盤をさらに発展させ、次なる成長へと歩みを進める節目の年です。教職員一同、学生一人ひとりの成長を支え、地域社会の期待に応える専門医療技術者の養成に一層努めてまいります。

本誌では、本学部の教育・研究活動や学生の活躍の様子をご紹介します。本誌を通じて、本学部の取り組みへの理解をより深めていただくとともに、皆様とのつながりが一層深まることを願っております。今後とも、本学部への変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

保健科学部 の 特色

教育環境

- 各分野に精通した経験豊富な教員が在籍
- 医療機関等で実際に使われている高度な実習機器を導入

カリキュラム

- 県内唯一の特定機能病院である附属病院などにおいて、充実した臨床実習を実施
- 医学部・看護学部の教員も一部の授業を担当。より専門性の高い教育を受けられる体制
- 医学部・看護学部の学生との合同授業により、チーム医療を実践的に学べる
- 福島県の地域医療や災害医療を学べる

TOPICS

入学式

(令和8年4月8日)

ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)において、保健科学部新入学生145名を迎えて令和8年度入学式を執り行いました。鈴木 弘行学長(代行:亀岡副理事長)は、式辞の中で「野口英世は『人は、その志によって道を開く』と語り、福島から世界へ出て、人類の感染症研究に大きな足跡を残した。今日この場所にも、同じ志を抱いた仲間がいる。これから医療の現場に立ったとき、あなたはどのような医療者でありたいか。その答えを、これからの大学生活の中で見つけてください。」と新入生に対する期待の言葉を述べました。



第1回保健科学部公開講座

(令和8年5月16日)

福島駅前キャンパスにて「スポーツ・ダンス愛好家のためのからだづくり」をテーマに、第1回保健科学部公開講座を開催しました。

本公開講座は、保健科学部においてこれまで培ってきた教育・研究・臨床の成果を地域社会へ還元し、地域に根差した「開かれた大学」としての活動を推進するものです。

第1部では、理学療法学科の遠藤 康裕講師が『ずっと楽しく動ける体』のヒケツ」と題し、①「準備」の大切さ、②自身のカラダを知る／姿勢の大切さ、③ケガ予防に関する講演を行いました。第2部はトークセッションで、ゲストにダンス&ボーカルグループ「OWV(オウブ)」より本田 康祐さん(田村市出身)と佐野 文哉さんを迎え、ダンスの動作解析や、ケガに関するインタビュー、OWVの楽曲を使用したストレッチなどを通じて、参加者と共にケガ予防やからだづくりについて学びました。体験コーナーでは、理学療法学科の学生スタッフが測定体験やボッチャ体験をサポートしました。

年間GPA※表彰式

(令和8年5月11日)

昨年度1年間の成績に基づいて、各学科の学年1位を修めた学生が表彰され、賞状および副賞が授与されました。

5期生

理学療法学科 安孫子 心暖
作業療法学科 阿部 亨南
診療放射線科学科 村上 万桜
臨床検査学科 加勢 明愛



4期生

理学療法学科 秀間 萌葉
作業療法学科 伊藤 すず
診療放射線科学科 古内 涼々香
臨床検査学科 斎田 あず



3期生

理学療法学科 青木 祐大
作業療法学科 稲葉 優奈
診療放射線科学科 遠藤 毅人
臨床検査学科 吉田 百華



(左端)ストレッチを解説する遠藤講師
(中央左より)OWV 本田さん、佐野さん



教員、学生スタッフとの記念撮影

※GPA(Grade Point Average):
科目ごとの成績をポイントに換算し、さらに単位数に応じて加重平均したもの



オープンキャンパス



福島駅前キャンパスで保健科学部オープンキャンパスを開催しました。今年度は1,414名の方にご参加いただきました。各学科の展示・体験を楽しむほか、入試制度相談や過去問閲覧コーナーの活用など、充実したイベントで盛況に終わりました。参加された皆様が、医療従事者や保健科学部に魅力を感じ、将来本学で学びたいと考えていただければ幸いです。

理学療法学科



当学科では、4つのテーマを設けた模擬講義に加え、筋力・体組成・重心動揺の各所測定その他、ボッチャ・テーピング・電気刺激などの体験コーナーを実施しました。また、機器を使用した動作や筋肉の働きを解析する装置について説明するなど、90名を超える学生スタッフと共に理学療法について知っていただく楽しい時間となりました！



作業療法学科

今年も、作業療法の魅力を存分に感じていただける多彩な体験ブースを設けました。先端テクノロジーを活用した支援の体験、作業療法士の専門性である「人を理解する力」を学ぶ体験などを通して、作業療法の幅広さや奥深さに触れていただきました。在校生が来場者一人ひとりに丁寧に説明し、楽しそうに交流する姿がとても印象的でした！



診療放射線科学科

当学科では、CT・MRI・透視・放射線計測・3D画像などの展示や体験企画を実施しました。実際の装置や画像に触れながら、在学生在が診療放射線技師の仕事や大学での学びを紹介し、多くの来場者で会場は活気にあふれました。今回の体験が、医療や放射線への関心を深め、将来の進路を考えるきっかけとなれば幸いです。



臨床検査学科

当学科では、在学生在が主体となり、顕微鏡、血液、微生物、検体、超音波・心電図などの臨床検査体験や学科説明会を実施しました。また、クイズラリーを行い、楽しみながら臨床検査に関する理解を深めていただきました。多くの皆様にご来場いただき、ありがとうございました。臨床検査学科の温かく活気ある雰囲気を感じていただけたなら幸いです。



理学療法学科

Department of Physical Therapy

研究活動紹介

—「モンゴル国立医科大学との国際交流協定」—

講師 遠藤 康裕 他

福島県立医科大学は令和8年5月、モンゴル国ウランバートル市に本部を置くモンゴル国立医科大学(MNUMS)看護学部と、国際交流協定および学生交流覚書を締結しました。本学保健科学部が中心となって実現した今回の協定は、教育・研究両面での連携強化と国際交流のさらなる発展を目的としています。

本学の理学療法学科・作業療法学科は令和5年からMNUMSと高齢者の生活機能およびフレイル予防に関する共同研究を進め、ウランバートルやマンダルゴビでの現地調査、国際学会での共同発表などを通じて研究者間の交流を継続的に深めてきました。これらの実績を踏まえ、組織的かつ継続的な連携へと発展させるため、今回の協定締結に至りました。今後は学生・教員・研究者の相互交流や共同研究をより発展的に進めてまいります。



モンゴルのスタッフとともに
上段：青シャツが遠藤講師、中央が柴教授
下段：青シャツは2期生 栗林 涼介さん

学びの成果

卒業研究が国際学術誌に掲載！

当学科卒業生の幸保 匠真さん(1期生：南東北福島病院)を筆頭著者とする研究論文が、国際学術誌『Journal of Biomechanics Open』に掲載されました。幸保さんが在学中に取り組んだ卒業研究を発展させ、地域在住高齢者の歩行時足底荷重をインソール型センサーで分析したものです。足部に回内(扁平足傾向)がある高齢者の歩行では、足の中央部への荷重が大きいことを明らかにしました。

【幸保さんからのコメント】

「卒業研究が英語論文として掲載され、大変光栄に思います。学生時代からご指導いただいた先生方のおかげで論文として発表できました。研究で培った探究心や論理的思考を、日々の臨床業務に活かしていきたいと思っています。」



掲載誌：Journal of Biomechanics Open,
Volume 1 (2026)

Plantar force characteristics during walking in older adults with pronated feet: A study using a three-sensor in-shoe system

回内足の高齢者における歩行時の足底荷重特性：3センサー式インソールシステムを用いた研究

地域活動への参画

楽しくフレイル予防しよう！

令和7年度に、福島県健康づくり推進課主催、福島民報社および本学理学療法学科との連携により、県内でフレイル予防事業に参画しています。通いの場では、県内4地域(平田村2か所、檜葉町、会津坂下町)で3か月間のフレイル対策個別支援を実施しました。また、令和8年2月には、中通り・浜通り・会津の3地域で県民参加型の普及啓発イベントを開催しました。イベントでは、理学療法学科の学生とともに、フレイル予防の運動指導や体組成測定を行い、各会場100名を超える県民が参加しました。



ベジコちゃんとともに(郡山会場：ヨークパーク)

作業療法学科

Department of Occupational Therapy



研究活動紹介

教授 林 博史

作業療法では、対象者一人ひとりの生活歴や価値観を踏まえ、「意味のある作業」を中心とした支援を行います。私たちは、対象者の価値観と関連の深いパーソナリティ特性に着目し、地域在住高齢者の活動や趣味などへの参加が認知機能や心理的健康にどのような影響を与えるのかを調査しています。個々のパーソナリティ特性に応じた活動と健康との関連を明らかにし、認知機能や心理的健康の維持・向上につながる、より効果的な支援方法の構築を目指しています。

第36回東北作業療法学会を開催

(令和8年7月4・5日)

福島駅前キャンパスを会場として、第36回東北作業療法学会を開催しました。東北6県を中心に500名を超える作業療法士が参加し、活発な学術交流が行われました。

本学の卒業生(1・2期生)も多数参加し、作業療法士として研究発表や活発な議論を行う姿が見られました。学会長は学部長・作業療法学科の五百川 和明教授が務め、学生も学会運営を支えました。

在学中の学びを生かし、3Dプリンターを活用したワークショップの企画・運営に携わる学生もあり、学生にとって、学会運営やワークショップの企画・運営を通じて作業療法士としての専門性を実践的に学ぶ貴重な機会となりました。



— 学会学生ボランティアに参加しました —

今回の東北作業療法学会では、当学科の1～3年生の有志が学生ボランティアとして学会運営に関わってくれました。

「学会での学生ボランティアでは、講演前後のアナウンスや会場設営・撤収などの運営業務を担当させていただき、大変有意義な機会となりました。また、作業療法士の先生方の講演や展示見学を通して、作業療法の奥深さを実感しました。加えて、参加者が議論を交わし知識を深め合う姿に感銘を受け、作業療法士としての生涯学習の重要性を改めて認識しました。多くの人々によって支えられた学会運営の裏側を知るとともに、今後の学びへの意欲が高まった貴重な経験となりました。」(2年生 阿部 亨南)



学びの様子

総合実習後のセミナー (令和8年7月7日)

4年生が8週間の臨床実習を終え、実習地で経験した作業療法実践について事例報告を行いました。自身の経験や取り組みについて堂々と発表する姿からは、4年間の学びを通じて大きく成長した様子がうかがえました。事例報告の後は、2・3年生も交えてグループワークを行い、実習で得た学びや工夫を学年間で共有しました。

4年生は経験を言語化し下級生に伝えることで理解を深め、2・3年生は今後の実習に向けた貴重な学びを得る機会となりました。本学科では、対象者一人ひとりとその家族、地域に寄り添い、学びを実践へとつなげることができる作業療法士の育成を目指しています。今後も地域の皆さまや実習施設のご指導・ご支援をいただきながら、地域に貢献できる人材の育成に取り組んでまいります。



防災メイカソン

(令和8年5月23・24日)

「防災メイカソン2026」を開催しました。本イベントは、避難所生活の課題を作業療法とものづくりの視点

から解決することを目的に企画され、障がい当事者、作業療法士、高校教諭、企業関係者が参加しました。

参加者は、課題解決に向けたアイデアの創出から試作、改善、発表までを2日間で行い、具体的な成果物としてまとめました。

本イベントは、専門分野や立場を越えて協働する意義を実感するとともに、防災における作業療法の可能性と、誰もが安心して過ごせる避難所の環境づくりの重要性を再確認する機会となりました。



診療放射線科学科

Department of Radiological Sciences

研究活動紹介

広藤研究室では、子どもの放射線検査をより安心して受けられるよう、撮影方法や線量管理の研究に取り組んでいます。

福島県内22施設と協力して小児X線撮影の線量を調査し、撮影方法の工夫により線量を抑えながら検査できることを示しました。また、医療現場で実践できる撮影方法や線量管理の仕組みづくりを進めています。研究成果を地域医療へ還元し、子どもたちが安心して検査を受けられる環境づくりに役立つ技術や仕組みの実用化を進めています。



より安心な小児X線検査の実現へ

学科交流会の開催 (令和8年4月10日)

入学式から間もない時期に、多目的ホールにて、2年生が企画・運営する新入生学科交流会が開催されました。参加した新入生は、大学生活やサークル活動について先輩たちに熱心に質問し、上級生は自身の経験を踏まえながら親身にアドバイスを共有していました。3・4年生や大学院生も積極的に参加し、学年の枠を超えた幅広い交流が実現しました。新入生にとっては、先輩との関係を築くとともに、これからの大学生活への適応を後押しする貴重な機会となりました。



サークル活動紹介 浜ROOTs

『浜ROOTs』(2026年設立)は、浜通りを根っこに「知り、つながり、広げていく」をコンセプトに活動するサークルです。浜通りの復興や地域の魅力を学び、発信しています。現地での交流やイベントの企画・運営を通して、一人ひとりが地域の未来を自分ごととして考えるきっかけづくりに取り組んでいます。



学生ならではの視点や行動を大切に、地域の方々とつながりながら、福島で得た学びや経験を県内外へ発信し、人と地域をつなぐ架け橋を目指しています。

(3年生 古内 涼々香)

学びの様子

診療放射線技師としての 土台を築くための実験

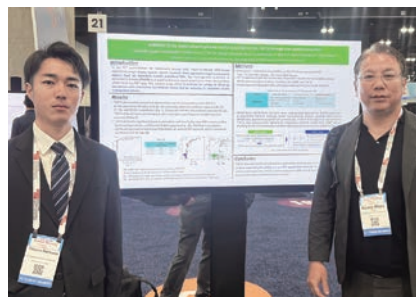


2年生の「放射線基礎科学実験」では、1年次までに座学で培った放射線物理・放射化学・放射線生物の知識を、実践的な実験を通して確かな技術へと落とし込みます。具体的なテーマは、放射線の物理的な違い、放射性物質の分離・精製、そして細胞への放射線影響の評価など。

将来、高度な診療放射線技師として活躍するために欠かせない、科学的な探究心と確かな技術の礎をこの実験でしっかりと身に付けます。



大学院修士課程での新たな挑戦



4月に大学院診療放射線科学領域修士課程へ進学し、研究活動に取り組んでいます。

AIを活用したアルツハイマー病のPET画像解析に関する研究成果を国内外の学会で発表し、日本放射線技術学会では学生最優秀賞、米国核医学会(SNMMI)ではProfessional Development Grant Awardを受賞しました。

また、NHK福島のラジオ番組「ふくどん!」に出演する機会をいただき、本学の魅力や研究内容を紹介しました。

今後も研究成果を積極的に発信し、福島の医療の発展に貢献できるよう努力していきます。

(診療放射線科学領域 1年 堀川 拓真)

臨床検査学科

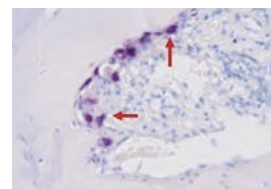
Department of Clinical Laboratory Sciences

研究活動紹介

関節リウマチと病理学

教授 宇月 美和

病理学は「形態学」に分類され、おもに細胞や組織の「形」から病気の診断や原因の解明を行います。しかし、形が似ていても性質の異なるものがあるため、細胞の持っているタンパクや遺伝子を調べてさらに検索を進めます。昨年度の卒業研究の病理ゼミでは関節リウマチの滑膜や骨組織で骨破壊に関与するサイトカインなどを酵素組織科学や免疫組織科学という手法を用いて検討しました。写真で赤矢印の示すのはTRAP染色で検出された破骨細胞です。



多核の破骨細胞 (赤紫色)

学位授与式と新入生オリエンテーション

(令和8年3月・4月)

3月の学位授与式では、卒業生一人ひとりが晴れやかな表情で学位記を受け取り、大学で積み重ねてきた努力が成果となったことを実感していました。専門知識や技術、そして医療人としての責任感を胸に、新たな道へ踏み出す姿はとても頼もしく、ご家族や先生方への感謝の気持ちがあふれていました。心温まる、感動的な授与式となりました。



4月には、新入生オリエンテーションが開催されました。豊川学科長からは「医療人としての倫理観と責任感」の重要性が語られ、各教員からは、臨床検査技師という職業の魅力、将来を見据えた心構えや守秘義務の大切さが伝えられました。自己紹介では、同じ夢を持つ仲間と理解し合う良い機会となりました。



3学年交流会

(令和8年4月24日)



1～3年生が学年混合のグループに分かれ、先輩から大学生活やアルバイトなどについての話を聞きながら交流を深めました。その後は先生方にもご参加いただき、グループ対抗のゲームを楽しみました。最後は豊川学科長とのじゃんけんで勝敗を決めるなど、先輩や後輩、教員との親睦を深める貴重な機会となりました。

(3年生 小野 鈴佳)

学びの様子

免疫検査学実習

本実習では、臨床の現場で検査上のトラブルに直面しても、根拠をもって対応できる力を養うため、免疫検査の学術的・技術的な基礎・基本を学びます。

必要な検査器具も学生自身が考えて準備し、自主性を育んでいます。また、毎日の清掃も大切にし、互いに協力しながら楽しく実習に取り組んでいます。将来、医療現場で活躍する姿が楽しみです。



サークル活動紹介 アガーアートサークル

微生物を寒天培地で培養させ絵を描く、アガーアートに取り組んでいます。同じ菌でも培地により発色が変わり、時間によって形態が変化していく、アガーアートでしか味わえない魅力があります。年に一度の世界大会やオープンキャンパスへの出典を目標にメンバー全員、日々アガーアート作成に取り組んでいます。

(3年生 堀 真衣佳)



寒天培地に、白金耳を用いて、微生物を塗布しています



アガーアート作品
猫(左)とキツネ(右)

総合科学教育研究センター

Center for Integrated Sciences and Humanities

講義の紹介 No.08 専門分野につながるアカデミックライティング (講師 久保田 恵佑)

本授業では、自身の関心に基づいてテーマを設定し、Mini Literature Reviewなどの英語によるアカデミックライティングの実践に取り組みます。文献を探し、内容を理解・整理した上で、主張と根拠を結び付け、読み手に伝わる文章へと発展させていくことを目指します。



第二言語ライティングでは、文章を書くことを、一度で完成させる作業ではなく、構想、執筆、フィードバック、振り返り、修正を繰り返すプロセスとして捉えます。本授業でも、完成した文章だけでなく、書き手がどのように考え、文献を活用し、文章を改善していくかを大切にしています。また、言語評価・教育評価の知見を踏まえ、教員による個別フィードバックに加え、自己評価や相互評価も取り入れています。受講生は、評価基準やフィードバックを手掛かりに、自身の文章の到達状況や課題を判断し、どの点をどのように修正するかを考えます。評価から得られた情報を解釈し、次の執筆の判断や行動につなげることも、重要な学びとして位置付けています。

授業では、Academic Integrityや生成AIの適切な活用についても考えます。さまざまな支援ツールを利用できるからこそ、情報の信頼性を確かめ、自分の考えと他者の考えを区別し、書いた内容に責任を持つことが必要です。単に誤りの少ない英文を書くのではなく、英語で情報を集め、根拠に基づいて考え、専門分野の知を他者に伝える力を育てることを目指しています。

ストレッチ動画を公開しました！

第1回保健科学部公開講座「スポーツ・ダンス愛好家のためのからだづくり」(令和8年5月16日開催)において制作したストレッチ動画を福島県立医科大学の公式YouTubeチャンネルで公開しました。

本動画は、理学療法学科の遠藤 康裕講師が専門的知見に基づいて考案したものであり、楽曲は公開講座のゲストであるOWV(オウブ)の「EASY」を使用しました。ストレッチは立位バージョンと椅子バージョンの2種類があり、世代を問わず楽しみながら体を動かすことができますので、皆様の健康づくりにぜひご活用ください。



※動画はこちらから
ご覧いただけます

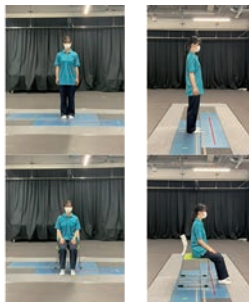
からだづくりのための運動&ストレッチ

楽曲:OWV「EASY」

考案:遠藤 康裕

福島県立医科大学 保健科学部 理学療法学科 講師

※著作権の関係上ピアノ演奏に変更しています
原曲の場合動画の約1秒後に再生してください



保健科学研究科大学院生の研究紹介



診療放射線科学領域 1年

鳴山 嵩志

私たちの体では、筋肉や脳などが活動するために多くのエネルギーが使われています。私は、MRI技術を用いてそのエネルギー代謝の変化を可視化して評価する研究を行っています。

現在、筋肉に運動負荷を与えた際の代謝変化を画像で測定する方法を開発しています。

将来的にはスポーツ現場におけるけがの予防やコンディショニング管理に役立てたり、高齢者の健康維持や運動機能の評価に活用したりできるようにしたいと考えています。

編集後記

各地で自然災害が相次ぎ、心痛む日々が続いています。被災地の一日も早い復旧を願いながら、学びの歩みを進めています。今年度は修士課程開設2年目を迎え、学部生を含め学びの場がより豊かになりました。本学部の学びの成果は国家試験や就職率だけでなく、今号で紹介したように、学会発表や論文、サークル活動にも表れています。教員も研究の幅を広げながら、より良い学びの環境づくりに努めています。こうした本学の歩みが伝われば幸いです。

編集担当 岡崎 可奈子



公立大学法人

福島県立医科大学

発行/福島県立医科大学保健科学部

〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号 福島駅前キャンパス
TEL 024-581-5503 FAX 024-581-5528

お問合せはこちらまで
<https://fmu-hs.jp/>

発行年月日/令和8年10月1日

